

Info 1

第4回 神鋼感染症フォーラム

- 日時：2015年2月5日(木)17時30分～18時30分
- 場所：神鋼病院呼吸器センター・管理棟5階 大会議室
(神戸市中央区脇浜町1-4-47)
- 一般演題：「ときどきはシマウマ」
座長：神鋼病院 感染症科 香川 大樹
演者：神戸大学大学院医学研究科 微生物感染症学講座
感染症治療学分野 松尾 裕央 先生

【松尾先生より】

稀だけど時折見る感染症について症例提示を中心としてお話しさせていただこうと思っております。総じて大学で診断する珍しい病気(マラリア、デング熱、HIVなどを含め)の初診は近隣の病院です。神鋼病院にも同様に飛び込み初診で海外渡航後の発熱やよくわからない不明熱が来られて当院にお送りいただく事があるかと思っております。近隣の病院にご紹介いただいた症例を中心として、最近流行のデングおよび渡航後の発熱の考え方などをお話しできればと思っております。

Info 2

第14回 神鋼外科フォーラム

- 日時：2015年2月19日(木)18時30分～20時00分
- 場所：神鋼病院呼吸器センター・管理棟5階 大会議室
(神戸市中央区脇浜町1-4-47)
- 一般演題：「当院における膵癌手術の現況」
司会：神鋼病院 外科部長 上原 徹也
演者：神鋼病院 外科部長 藤本 康二
- 特別講演：「肝胆道外科におけるイノベーション」
司会：神鋼病院 外科部長 藤本 康二
演者：京都大学医学部附属病院
肝胆膵・移植外科 准教授 波多野 悦朗 先生
- その他：日本医師会生涯教育講座 1.5単位に認定されています。
軽食をご用意しております。

Info

講演会についてのお問い合わせ

神鋼病院 地域医療連携センター 地域医療連携室 担当：浅田
TEL：078-261-6739 (直通)

Info 3

第13回 研究カンファレンス(個の医療研究会共催)

- 日時：2015年2月27日(金) 18時30分～19時30分
- 場所：神鋼病院呼吸器センター・管理棟5階 大会議室
(神戸市中央区脇浜町1-4-47)
- 演題：「ヒト生物学と大規模ゲノムコホート研究」
演者：京都大学 医学研究科 松田 文彦先生
- その他：日本医師会生涯教育講座 1単位申請しております。

Info

講演会についてのお問い合わせ

神鋼会 総合医学研究センター 担当：兒山(こやま)
TEL：078-261-6711 (代表)

Contents

- *【特集】病理診断センター
「病理診断センターと
病理診断科のご紹介」
- *感染症科医のつぶやき
- *開業医探訪
「のだ整形外科クリニック」
- *講演会のご案内

神鋼病院理念

地域医療に貢献し、
信頼される病院を目指します。

基本方針

1. 患者さんの立場にたった「あたたかい」
医療を提供します。
2. 個人の尊厳と生活の質を重視した
医療を実践します。
3. より良い医療を提供するために、
常に学・技の研鑽に励みます。
4. 全ての領域における医療安全に
最大限の注意を払います。
5. 快適で清潔な医療環境の構築に
努力します。

医療法人社団 神鋼会 神鋼病院

〒651-0072 神戸市中央区脇浜町1-4-47
TEL：078-261-6711 (代表)
FAX：078-261-6726
URL：http://www.shinkohp.or.jp/
発行責任者：病院長 山本 正之
編集責任者：神鋼病院広報委員長 山神 和彦

講演会などの
詳しい情報はこちらから!!

神鋼病院 検索

http://www.shinkohp.or.jp/

特集 病理診断センター

病理診断センターと病理診断科の紹介

明けまして
おめでとうございます

皆様、色々な思いで新年をおむかえ
になったことと存じます。

今回は病理診断センターと病理診断
科について紹介させていただきます。
私は、平成26年3月末に獨協医科大学
(栃木)を退職し、4月から現職に着任
いたしました。18年ぶりの神戸での勤
務です。昭和49年に神戸大学の医学
部を卒業し、その後、病理医として関
東を中心に活動して参りました。大学を
離れ、一病理診断医としてこの脇浜の
神鋼病院で再スタートいたしました。病
理診断医としては長い間、消化管を中
心に行って参りました。神鋼病院は333床
とはいえ、膨大な領域にわたる診断業
務です。私の力不足を優秀なスタッフ
にカバーしてもらい、日常の診断業務
をしております。

近年、専門医養成の要望は強く、病
理診断医もまた一般病理診断に加え
専門化する方向に進まざるを得ない時
代です。そのような観点から、我々のセ
ンターでは診断困難例を中心に、伊藤
教授(神大)のグループ、大林教授(奈
良医大)、黒住先生(埼玉がんセンタ
ー)、長廻先生(富田林病院)、今井先
生(神戸中央市民病院)、富田教授
(順天堂浦安病院)、菅井教授(岩手
医大)らのセカンドオピニオンを受ける
ようにしております。

社会の要請に準じて診断と特殊外来
を目的に、臨床科の一環として昨年10
月1日から市川一仁病理診断科部長
(福島医大、特任教授)が加わりまし

た。他施設から病理診断に興味のある
研修医も集まりつつあります。病理診
断センターと臨床部門に属する病理診
断科は表裏一体とご理解いただきたい
と思っております。

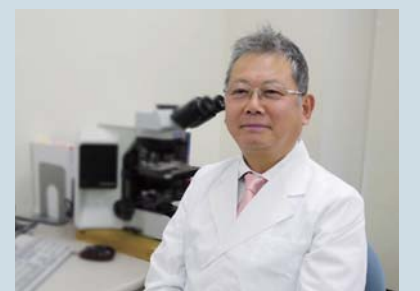
また、病院スタッフの協力で自動免疫
染色装置や診断室などの環境整備を
していただき、病理標本診断室は2階
のカンファレンスルームに、病理標本
作製室ならびに剖検室は1階に設置さ
れ、西川ユウコ室長、大矢ミカ、吉田奈
央、森川友律子、小林建太、佐々木美
波、更に、新人が加入する予定になっ
ています。診断担当の病理専門医とし
ては、伊藤利江子先生がスタッフとして
加わっています。病理専門医が3人の
体勢は病院の病理診断に対する意気
込みと感謝する次第です。

病理医の現状

さて、一般論ですが、病理医につい
ては、日本病理学会認定病理専門医
は2008年の資料では1900名位(認定
病理専門医：日本病理学会ホームペ
ージ)が登録されており、その専門医が
大学、病院の病理を行っているのが現
状ですが、既に数年前から50%近くが
55歳以上であり、近い将来、高齢化は
防げません。ある人は絶滅危惧種と言
っています。

文献の中ですが、病理専門医といっ
ても色々な人がいます。病院病理医と
して病理診断を行う(大学病院を含
む)、あるいは、大学で研究を主体に
過ごす病理医、アルバイトで暮らす病
理医など、様々な勤務状態が考えられ

ます。また、アメリカの病理専門医と日
本を比較すると、人口比を同じにした
時、20倍位人数が違い、日本が低いと
いう傾向があります。これは我が国にお
いて病理医に対する認識、待遇や、環
境整備が未熟であることを示していま
す。このような状況を鑑みて、埋もれた
病理医の発掘(特に女性)、これから病
理を志願する若い医師と技師の養成
は病理診断環境の整備という観点から
は重要です。外科医、産科医、病理医
だけの問題ではないとしても如何に魅
力のある施設にするか、という課題は
今後の病院経営にとって重要です。机
上の空論ではなく、国民(大層ですの
で地域住民と理解してください)の為の
より研ぎすまされた病理診断の提供、



病理診断センター
センター長

藤盛 孝博
TAKAHIRO FUJIMORI

昭和49年に神戸大学を卒業。埼玉医科大学、
東京女子医科大学を経て、平成元年に神戸大
学病理学教室に、その後平成8年から獨協医
科大学に勤務。現在は福島県立医科大学特任
教授。
日本病理学会認定病理専門医、日本病理学会
病理専門医研修指医認定、日本細胞診学会認
定医・指導医、日本内視鏡学会認定医・指導
医、日本消化管学会認定医・指導医などの資格
を持つ。

その為の環境整備について国全体の実際的な対応が必要です。

以下は、「消化器内視鏡」という消化管の内視鏡に関する専門誌の2015年(本年)の年頭所感に掲載された私の原稿です。「消化器内視鏡」を専門外の皆様が読む機会がないと思いますので、本稿に一部改変して短く紹介させていただきます、そのことが我々のセンターのあり方の理解の一助になれば幸いです。



後列左から 吉田 奈央、森川 友律子、小林 建太
前列左から 西川 コウコ室長、市川 一仁部長、藤盛 孝博センター長、大矢 ミカ

継続、実直、面授、 熟達の大切さ

昨年末の紅白歌合戦も白組の勝利で終わりました。トリが嵐と松田聖子と、時代は様変わりしたと感じました。審査員にiPS研究所の山中伸弥教授が選ばれていました。昨年もノーベル賞で湧いた日本列島でした。山中教授はじめノーベル賞を授与された先生の話は、継続、実直がいかに大事かを日本中に知らしめたと思います。もって生まれた人格を天為: providentialと言います。天為だけでは努力目標になりません。自分を変え、上達する術が必要です。実直に継続した努力を行い、ちょっとしたユーモアの心をもってストレスを楽しむ、誰でも分かっている事なのに、これができない。どのようにすればできるのでしょうか。面授という事象があります。難しいことはわかりませんが、仏教の用語で教えを対面して直接に授かるという意味だそうです。本を読んで知るのは異なる、人間から人間にしか伝わらないものだと思います。

以下のエピソードが面授といえるかどうか自信ありませんが、上達/熟達(proficiency)を感じる事の大事さを伝えることはできそうです。

2012年から2013年に、定年あと2年ということで、スタッフ、とくに実験と論文制作を担当するスタッフの欠員を補う機会を無くした時がありました。他のス

タッフはルーチンと自分の仕事のまとめで手一杯でした。そこで、その時の院生、研究生5-6名の面倒を私がみることにしました。従来はテーマだけ与えて、あとはスタッフ任せ、1週間に1回の研究ミーティングで進み具合の報告を聴き、投稿前に、全体の仕上がりチェックと投稿先を決めるのが私の役目でした。教授をはじめ各種委員会、編集会議、学会、研究会、講演などにかまけて、実際にこれ以上出来る時間がないことを理由に細かい教育を丸投げしてスタッフに任せていたのが現実でした。定年前の比較的時間が出来た時期だからこのような事をこなせたのでしよう。

実験ノートに忠実に、起承転結に注意して日本語の論文を完成した後、1日2-3行ずつ、毎日、対面、ときにメールのやり取りで添削して英文に換えていきました。最初は院生もこんなことで英文ができるのか、と疑問視していたようです。でも、3ヶ月くらいで英文ができました。それから英文校正して投稿です。それらの論文がimpact factorのある雑誌に受理されてはじめて院生らは私を信じたそうです。

言われたようにやれば成功するという経験を積ませることが、次は自分一人でもできるという自信に繋がると感じました。それはまた教える側の自信にも

なります。成功経験が最もproficiencyを感じさせ、次への自信となりました。その時の院生に感謝したい。如何にできない人にやらせてproficiencyを感じさせ、次は一人でできるという自信に繋げるかが教育だと思います。天為だけでなく、人間から人間へ、真摯な気持ちで面授することが、人格形成だけでなく、研究にも臨床にも大切だろうと思います。我々の施設では、目標とすることを実践する事で上達 (proficiency) を体験できるような、丁寧な指導を心がけたいと考えております。

『愛日』とは西の空に太陽が沈んでいくわずかな時間を大切に思う気持ちだそうです。ある卒業式の祝辞で聞いた話の一つに心に残る言葉があります。

『目の前をビックチャンスが通る機会は平等にある。問題はビックチャンスが目の前を通る時にそれに気づくだけの準備があるかどうかで、チャンスをつかむか見逃すかに違いが生じる』分かりやすく書くとこのような要旨ですが心に残しておきたいと思っております。今後とも我々の施設のご支援をお願い申し上げます。

【海外の風土病をどのように診断するか?】

西アフリカでエボラ出血熱が流行しています。日本でもエボラ出血熱感染疑いの事例があり大騒ぎになりました。このように、現代の日本はいつ海外から風土病がいつ入ってきて不思議ではない状況です。実は、海外の危険な風土病はエボラ出血熱以外にも数多くあります。例えばマラリアです。マラリアは人から人への感染はありませんが、診断が遅れると命に関わる危険な疾患です。

では、どうすれば海外の風土病を早期に診断できるのでしょうか。実は、どの国でどんな感染症が流行しているか全て記憶しておく必要はありません。流行状況はいつでも変わりうるからです。覚えるべきことは、①発熱患者さんに過去2か月以内の海外旅行歴を尋

ねる、②海外旅行歴があればその国の風土病をFORTH(厚労省検疫所のウェブサイト)で調べる、③発症日や症状が風土病の経過(潜伏期間等)と合うか確認する、の3つだけです。風土病が疑わしければ保健所等に相談しましょう。海外旅行歴がなければ10秒で終わりますし、海外旅行歴があっても数分で終わります。『海外旅行歴を聴いたら外来がパンクする』ということはないでしょう。

多くの人が海外旅行をする時代です。海外で風土病に罹ってしまった人もきちんと診断出来るようにしたいものです。患者さんの命だけでなく、自分の命を守るためにも!

※エボラ出血熱の流行に伴い、内容を変更しました。次々回より、抗菌薬の適正使用についてのお話を再開します。

開業医探訪 inquires into a doctor Vol.18

【整形外科・リハビリテーション科】

のだ整形外科クリニック

今回は、JR住吉駅前「純粋な整形外科医療の提供」がモットーである「のだ整形外科クリニック」にお伺いしました。

■ 診療を開始されてどれくらいになりますか?

2008年9月、自身が育ち、かつ利便性の良いこの場所で開業し、今年で7年目に入りました。

■ どのような患者さんが来院されますか?

時間帯にもよりますが、高齢の女性の方が多いです。また、周辺がファミリー層で占められていることもあって、午後になると幼児から大学生の患者さんが来院されます。疾患としては肩・膝・腰の痛みや外傷、慢性疾患と幅広く診療しています。運動器リハビリテーションについては、1日40~50名の方が受けており、体制強化のため来年理学療法士1名増員予定としています。

■ 診療にあたり心掛けていることは何ですか?

間違わず、的確に診断をすることが必須です。そして、患者さんとの対話のなかでニーズを感じ取りながら、医学的根拠に基づいた治療を行っています。また、開業時からのモットーとして、スタッフ全員がプロとして患者さんに丁寧に対応すること、技術研鑽を怠らないことを心掛けています。

■ ひとこと

流れに惑わされないように、忠実で純粋な医療をいつまでも提供していきたいです。また、病院と診療所とのすみ分けを考慮しながら、診療を続けていきたいです。

information

- 神戸市東灘区住吉本町1丁目7番2号 石橋ビル2階
- TEL: 078-858-8208
- 診療科: 整形外科・リハビリテーション科
- 休診日: 土曜日午後、水日、日曜、祝日
- 診療時間

	月	火	水	木	金	土
8:45~12:15	○	○	×	○	○	○
15:30~18:30	○	○	×	○	○	×

